

鳥羽商船高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	インターンシップ
科目基礎情報					
科目番号	24220	科目区分	専門 / 選択		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	情報機械システム工学科	対象学年	4		
開設期	集中	週時間数			
教科書/教材					
担当教員	出江 幸重				
到達目標					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	キャリアイメージをもとに、仕事とのマッチング	企業などにおける将来にわたるキャリアイメージを持てる	企業などにおける将来にわたるキャリアイメージを持ってない		
評価項目2	自身の能力を高めようとする姿勢をとる	自身の能力について考えることができる	自身の能力について考えることができない		
評価項目3	企業あるいは技術者・研究者が持つべき仕事	企業あるいは技術者・研究者が持つべき仕事への責任の例を挙げることができる	企業あるいは技術者・研究者が持つべき仕事への責任の例を挙げることができない		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	企業等での実習（就業体験）を通じて、将来の進路や職業の選択に向けた職業観の要請を目的とする。ガイダンスの後に、提出書類作成する。実習先が決定後は企業調査等を行い、実習先企業の理解を深める。実習終了後は、レポート作成、発表を行う。				
授業の進め方・方法	事前研修として、インターンシップの意義と目的を説明し、学生の理解を深める。また、企業調査を行うことで、研修先の業務内容や研修内容について学ぶ。 企業での就業体験実習では、各テーマに沿って実習を行う。 事後研修では、レポート作成、プレゼンテーションを行い、各自が経験したことを伝える。				
注意点	<ul style="list-style-type: none"> 企業では、社会人としてのマナーが厳しく問われることに注意すること。 無断欠席・遅刻・総体は論外である。自覚して参加すること。 レポート作成、発表はもちろん、ガイダンスへの出席も必須である。 				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	インターンシップガイダンス	インターンシップの意義と目的、概要を理解する。	
		2週	インターンシップガイダンス2	「募集要項」「受け入れ先」「申し込み要項」を調べる。	
		3週	インターンシップの申し込み1	「インターンシップ申込書」「志望理由書」等を作成する。	
		4週	インターンシップの申し込み2	「インターンシップ申込書」「志望理由書」等を修正、提出する。	
	5週	実習先の決定、企業調査	実習先を決定し、企業調査を行う。		
	6週	企業での実習1	各テーマに沿った実習を行う。		
	7週	企業での実習2	各テーマに沿った実習を行う。		
	8週	企業での実習3	各テーマに沿った実習を行う。		
	2ndQ	9週	企業での実習4	各テーマに沿った実習を行う。	
		10週	企業での実習5	各テーマに沿った実習を行う。	
		11週	企業での実習6	各テーマに沿った実習を行う。	
		12週	企業での実習7	各テーマに沿った実習を行う。	
		13週	企業での実習8	各テーマに沿った実習を行う。	
		14週	企業での実習9	各テーマに沿った実習を行う。	
		15週	企業での実習10	各テーマに沿った実習を行う。	
		16週			
後期	3rdQ	1週	企業での実習1	各テーマに沿った実習を行う。	
		2週	企業での実習2	各テーマに沿った実習を行う。	
		3週	企業での実習3	各テーマに沿った実習を行う。	
		4週	企業での実習4	各テーマに沿った実習を行う。	
		5週	企業での実習5	各テーマに沿った実習を行う。	
		6週	企業での実習6	各テーマに沿った実習を行う。	
		7週	企業での実習7	各テーマに沿った実習を行う。	
		8週	企業での実習8	各テーマに沿った実習を行う。	
	4thQ	9週	企業での実習9	各テーマに沿った実習を行う。	
		10週	企業での実習10	各テーマに沿った実習を行う。	
		11週			
		12週	レポート作成	インターンシップのレポートを作成する。	

		13週	発表会資料作成	プレゼンテーションの資料を作成する。
		14週	レポート修正、提出	レポートの修正を行い、提出する。
		15週	発表会	発表会で発表する。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	工学基礎	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	説明責任、製造物責任、リスクマネジメントなど、技術者の行動に関する基本的な責任事項を説明できる。	1	
			現代社会の具体的な諸問題を題材に、自ら専門とする工学分野に関連させ、技術者倫理観に基づいて、取るべきふさわしい行動を説明できる。	2	
			技術者倫理が必要とされる社会的背景や重要性を認識している。	2	
			社会における技術者の役割と責任を説明できる。	2	
			情報技術の進展が社会に及ぼす影響、個人情報保護法、著作権などの法律について説明できる。	2	
			高度情報通信ネットワーク社会の中核にある情報通信技術と倫理との関わりを説明できる。	2	
			技術者の社会的責任、社会規範や法令を守ること、企業内の法令順守(コンプライアンス)の重要性について説明できる。	2	
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	技術者を指す者として、諸外国の文化・慣習などを尊重し、それぞれの国や地域に適用される関係法令を守ることの重要性を把握している。	2	
			日本語と特定の外国語の文章を読み、その内容を把握できる。	1	
			他者とコミュニケーションをとるために日本語や特定の外国語で正しい文章を記述できる。	1	
			他者が話す日本語や特定の外国語の内容を把握できる。	1	
			日本語や特定の外国語で、会話の目標を理解して会話を成立させることができる。	1	
			円滑なコミュニケーションのために図表を用意できる。	1	
			円滑なコミュニケーションのための態度をとることができる(相づち、繰り返し、ボディランゲージなど)。	1	
			他者の意見を聞き合意形成することができる。	1	
			合意形成のために会話を成立させることができる。	1	
			グループワーク、ワークショップ等の特定の合意形成の方法を実践できる。	1	
			書籍、インターネット、アンケート等により必要な情報を適切に収集することができる。	2	
			収集した情報の取捨選択・整理・分類などにより、活用すべき情報を選択できる。	2	
			収集した情報源や引用元などの信頼性・正確性に配慮する必要があることを知っている。	2	
			情報発信にあたっては、発信する内容及びその影響範囲について自己責任が発生することを知っている。	2	
	情報発信にあたっては、個人情報および著作権への配慮が必要であることを知っている。	2			
	目的や対象者に応じて適切なツールや手法を用いて正しく情報発信(プレゼンテーション)できる。	2			
	あるべき姿と現状との差異(課題)を認識するための情報収集ができる。	1			
	複数の情報を整理・構造化できる。	1			
	特性要因図、樹形図、ロジックツリーなど課題発見・現状分析のために効果的な図や表を用いることができる。	1			
	課題の解決は直感や常識にとらわれず、論理的な手順で考えなければならないことを知っている。	1			
	グループワーク、ワークショップ等による課題解決への論理的・合理的な思考方法としてブレインストーミングやKJ法、PCM法等の発想法、計画立案手法など任意の方法を用いることができる。	1			
どのような過程で結論を導いたか思考の過程を他者に説明できる。	1				
適切な範囲やレベルで解決策を提案できる。	1				
事実をもとに論理や考察を展開できる。	1				
結論への過程の論理性を言葉、文章、図表などを用いて表現できる。	1				
態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	周囲の状況と自身の立場に照らし、必要な行動をとることができる。	2	
			自らの考えで責任を持つてものごとに取り組むことができる。	2	
			目標の実現に向けて計画ができる。	3	
			目標の実現に向けて自らを律して行動できる。	3	
			日常生活における時間管理、健康管理、金銭管理などができる。	3	
			社会の一員として、自らの行動、発言、役割を認識して行動できる。	3	
チームで協調・共同することの意義・効果を認識している。	2				

				チームで協調・共同するために自身の感情をコントロールし、他者の意見を尊重するためのコミュニケーションをとることができる。	2	
				当事者意識をもってチームでの作業・研究を進めることができる。	2	
				チームのメンバーとしての役割を把握した行動ができる。	2	
				リーダーがとるべき行動や役割をあげることができる。	2	
				適切な方向性に沿った協調行動を促すことができる。	2	
				リーダーシップを発揮する(させる)ためには情報収集やチーム内での相談が必要であることを知っている	2	
				法令やルールを遵守した行動をとれる。	3	
				他者のおかれている状況に配慮した行動がとれる。	3	
				技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を認識し、技術者が社会に負っている責任を挙げることができる。	3	
				自身の将来のありたい姿(キャリアデザイン)を明確化できる。	1	
				その時々で自らの現状を認識し、将来のありたい姿に向かっていくために現状に必要な学習や活動を考えることができる。	2	
				キャリアの実現に向かって卒業後も継続的に学習する必要性を認識している。	2	
				これからのキャリアの中で、様々な困難があることを認識し、困難に直面したときの対処のありかた(一人で悩まない、優先すべきことを多面的に判断できるなど)を認識している。	2	
				高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業や大学等でのように活用・応用されるかを説明できる。	2	
				企業等における技術者・研究者等の実務を認識している。	3	
				企業人としての責任ある仕事を進めるための基本的な行動を上げることができる。	3	
				企業における福利厚生面や社員の価値観など多様な要素から自己の進路としての企業を判断することの重要性を認識している。	3	
				企業には社会的責任があることを認識している。	3	
				企業が国内外で他社(他者)とどのような関係性の中で活動しているか説明できる。	3	
				調査、インターンシップ、共同教育等を通して地域社会・産業界の抱える課題を説明できる。	3	
				企業活動には品質、コスト、効率、納期などの視点が重要であることを認識している。	2	
				社会人も継続的に成長していくことが求められていることを認識している。	2	
				技術者として、幅広い人間性と問題解決力、社会貢献などが必要とされることを認識している。	2	
				技術者が知恵や感性、チャレンジ精神などを駆使して実践な活動を行った事例を挙げることができる。	2	
				高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業等でのように活用・応用されているかを認識できる。	3	
				企業人として活躍するために自身に必要な能力を考えることができる。	3	
				コミュニケーション能力や主体性等の「社会人として備えるべき能力」の必要性を認識している。	3	
				工学的な課題を論理的・合理的な方法で明確化できる。	2	
				公衆の健康、安全、文化、社会、環境への影響などの多様な観点から課題解決のために配慮すべきことを認識している。	2	
				要求に適合したシステム、構成要素、工程等の設計に取り組むことができる。	2	
				課題や要求に対する設計解を提示するための一連のプロセス(課題認識・構想・設計・製作・評価など)を実践できる。	1	
				提案する設計解が要求を満たすものであるか評価しなければならないことを把握している。	1	
				経済的、環境的、社会的、倫理的、健康と安全、製造可能性、持続可能性等に配慮して解決策を提案できる。	1	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	35	0	0	35	30	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	35	0	0	35	30	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0